

(様式6)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成20年9月14日

【評価実施概要】

事業所番号	2870501224		
法人名	社会福祉法人光朔会		
事業所名	グループホーム オリンピア兵庫		
所在地	神戸市兵庫区小松通5-1-14 (電話)078-671-7065		
評価機関名	株式会社H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6番8-102号		
訪問調査日	平成20年8月12日	評価確定日	平成20年11月10日

【情報提供票より】 (20年7月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 8 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤14人, 非常勤3 人, 常勤換算15.2 人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	3 階建ての		3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	78000 ~ 94000 円	その他の経費(月額)	31,500 円	
敷金	有( 円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) ( 450000 円) 無	有りの場合 償却の有無	(有) / 無	
食材料費	朝食	315 円	昼食	420 円
	夕食	420 円	おやつ	210 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (7月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名	
要介護1	5	要介護2	5			
要介護3	6	要介護4	1			
要介護5	1	要支援2	0			
年齢	平均	84 歳	最低	80 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	川崎病院・橋本歯科医院
---------	-------------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

地域の中で誇りを持って安心して暮らし続けることを理念とし、利用者が地域社会と交流を持ちながら穏やかな生活の継続を実践している。また、地域とは日々の生活の中での関わりを大切に、毎日の散歩・外出時、公園でのふれあいなどでつながりを深めている。老人会・地域行事のお祭り・中学校の発表会に招待を受け参加している。また、グループホームがオーケストラや落語家を招き、地域の人を招待する等、交流を図っている。常に利用者の健康管理に留意し、利用者の希望にあわせた散歩・外出、又利用者1人ひとりの希望する個別の旅行などにも職員が一緒に出かけられるよう取り組んでいる。職員は、「寄り添うケア」を心がけ、利用者を中心に共に暮らすもの同士として、お互いの思いを共感し、協働しながら穏やかな生活ができるように努めている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目: 第三者4)
	毎年1回、ユニット改善プロジェクトとして良い点・悪い点について各50項目ずつ出し合い検討しサービス評価を行い、質の向上に取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目: 第三者4)
	全職員には、評価を受ける意義について説明しユニットごとに話し合いを行い意見を出し合ったものを館長・管理者で集約しまとめた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目: 第三者4, 5, 6)
	2ヶ月に1回開催する運営推進会議には推進委員の他多数の利用者の参加がある。会議では運営・利用者の生活状況を報告している。参加者から積極的に率直な意見や要望などの発言があり、運営やサービスの改善に向けた取り組みに反映させている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目: 第三者7, 8)
	家族の訪問時に面談した内容などは申し送りノートに記録し職員に回覧している。又家族会や懇談会には半数以上の家族が出席し活発な意見が出され、運営者と職員全員で共有しサービスの質の向上に向けて取り組む体制をとっている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目: 第三者3)
重点項目	地域とは日々の生活の中での関わりを大切にして、毎日の外出の際に花をもらったり、公園でのふれあいなどでつながりを深めている。又、中学校の発表会に招待を受けたり、ホームに大阪フィルや落語家を招き、地域の人を招待するなどの交流を図っている。

## 2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「生活の主人公は利用者ご本人」「高齢になってもこれまで通りに誇りを持った暮らしを地域の中で安心して続けるお手伝いをさせていただくこと」を理念とし、利用者ひとりひとりのその人らしい生活を支えるように努めている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の朝礼に利用者も参加し、職員と共に理念を唱和している。理念の実現に向けては、3つの基本的な約束事を決め、各ユニットで毎月目標を立て実践・評価を行い、レポートを提出し、検討を行うなど理念の実践に向け日々取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の老人会に参加し、グラウンドゴルフをプレーしている入居者がいるほか、地域のお祭りなどの行事には積極的に参加している。また、2か月に1度、Salon de l'Olympiaを開催し、地域の方々を招待する機会を作っている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価に関する情報は全職員で共有し、評価された点については更なる向上を目指し、また改善が必要と指摘された点については早急に改善を図るように努めている。また、ユニット内でもサービス評価を実施し、改善点を発見することにより、質の向上に取り組んでいる。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議では、日々の生活の様子やイベント、ホームの取り組みなどを紹介し、参加者の意見を運営に反映し、サービスの質の向上に努めている。運営推進会議にはご利用者にも数多く参加していただき、生の意見を活かせるように取り組んでいる。</p>		
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市の担当者とは常に密接な連携を図ると共に、市外や県の介護保険課・福祉関係者からホームの見学依頼・宿泊介護体験などの依頼があり、受け入れを行っている。館長は市の研修で講師を務め、グループホームだけに留まらず介護サービス全体の質向上に貢献している。</p>		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>ホーム便り、家族会などの機会を活用して定期的にお伝えするほか、家族がホームを訪れた際には、写真やビデオなども活用しながら日々の暮らしぶりを個々にお伝えしている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族の訪問時に面談した内容などは申し送りノートに記録し職員に回覧している。又運営推進会議、家族会・懇談会には半数以上の家族が出席し活発な意見が出され、管理者・職員全員で共有しサービスの質の向上に向けて取り組む体制をとっている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>基本的に職員は各ユニットに固定し、利用者 と馴染みの関係を構築できるように配慮して いる。また、日常的にユニットの枠を超えた 交流も行い、異動や離職に際しては、馴染み の職員を配置するなど、影響を最小限に抑え る努力をしている。</p>		
<b>5.人材の育成と支援</b>					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じ て育成するための計画をたて、法人内外 の研修を受ける機会の確保や、働きなが らトレーニングしていくことを進めてい る</p>	<p>新人・現任の年間の研修計画を立て内部、外 部共に充実した研修を実施している。新人研 修は、個人のレベルに合わせたケアの実習を 週間目標を立てて実施後、レポートをユニ ットリーダーが評価し、段階的に技術や知識 の習得に対して支援している。また、年1回自 己評価・館長面談を行い実績を評価し、職員 個々の能力向上への支援が行われている。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業 者と交流する機会を持ち、ネットワーク づくりや勉強会、相互訪問等の活動を通 じて、サービスの質を向上させていく取 り組みをしている</p>	<p>他施設からの訪問・実習などを積極的に受け 入れているほか、他の施設を訪問する機会も 設け、サービスの質の向上に取り組んでい る。さらに、館長が認知症介護サービス事業 者対象の研修の講師を務めることにより、他 施設との情報交換も行っている。</p>		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービス を利用するために、サービスをいきなり 開始するのではなく、職員や他の利用 者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家 族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入所申込後、併設のデイサービスやショール ームの利用を通じて、職員と馴染みの関係 を作り、グループホームの環境に馴染みなが ら、納得して利用できるよう支援している。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	利用者と共に過ごし支えあう関係  職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、「寄り添うケア」を心がけ、利用者を中心として共に暮らすもの同士として、お互いの思いを共感し、協働しながら穏やかな生活ができるように努めている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族・利用者一人ひとりの希望・意向をセンター方式のシートを使用して把握し、その人らしい生活が過せるよう努めている。日常的に担当者が利用者・家族との面談や日々の暮らしの中から得られた情報などから利用者の意向・要望を把握し、シートに追加しながら一人ひとりの人物像を職員が共有し、利用者本位の支援が行われている。		
<b>2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画  利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の希望を聞き、利用者の全体像を把握し、担当職員とリーダー、計画作成者で、原案となる計画を作成し、それを基に職員ミーティングで検討し介護計画を作成している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを 期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	37	現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月ごとに介護計画の評価を行い、日々のケアの中で観察した利用者の身体状況や生活面の情報をもとに見直しを行っている。また、見直し期間以前に起きた変化については、随時関係者によるミーティングを行い、検討するようにしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援  利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活用し、入院の回避や早期退院の支援、終末期ケアに取り組んでいる。また、「オリンピア福祉塾」「Salon de l'olympia」等のイベントや地域交流スペースを利用して地域の高齢者の支援を行っている。		
<b>4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援  利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関より、内科・外科・から週1回3人の医師の往診がある。本人・家族の希望を聞き、以前からのかかりつけ医との連携をとり受療が継続できるように支援している。認知症専門医との連携も図り利用者の生活の安定に向けて、日々のケアについての相談やアドバイスが受けられるようにしている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所として、重度化や終末期に向けての方針を決めて、マニュアルを作成し職員全員で共有できるように取り組んでいる。又、看取りについても早期から本人・家族・かかりつけ医・職員と繰り返し話し合う機会を持ち、安心と納得が得られるように支援している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>利用者ひとりひとりが尊厳ある生活を送るお手伝いをするを理念に掲げ、プライバシーに関わることについては取り扱いに細心の注意を払っている。また、職員は利用者に対して敬語でお話しすることをお約束している。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>日々の過ごし方についてスケジュールを決めず、利用者一人ひとりの希望や思いを聞き、自己決定を促し、その日の過ごし方については利用者のペースで生活が出来るように支援している。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>					
22	54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>毎食のメニューを利用者と一緒に決め、食材を配達してもらっている。利用者の出来る力に応じて下ごしらえ・味付け・盛り付け・後片付け等を手伝ってもらうなど一緒に作って、職員と同じ食卓でにぎやかに食事を楽しんでいる。</p>		
23	57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>1日の中においても、朝・昼・夜と利用者ひとりひとりの希望の時間に入浴していただけるように支援している。時にはスタッフが一緒に入浴し、楽しみを共有できるようにも取り組んでいる。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを 期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者ひとりひとりのこれまでの人生をよく知り、謡曲、手芸、歌、料理、買い物などの楽しみごとや、ホーム内の案内、語学力を生かした外国からのお客さんの対応などの役割をもってもらうことを支援している。		
25	61	日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	公園、ホームセンター、喫茶店など、利用者ひとりひとりの希望に応じて、毎日外出できるように支援している。また、雨の日など外出しにくい状況であっても、併設の喫茶店や事業所を利用するなど、ホーム内に閉じこもらないように努めている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	事業所の方針として鍵をかけないケアを職員全員で共有し実践している。利用者は、エレベーターに乗り事業所内にあるデイスサービス・併設の喫茶店に行くなど、自由な暮らしが確保できている。職員は施錠することの弊害を理解し、利用者に対しての言葉遣い・精神面への配慮も行われている。		
27	71	災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策に関する研修を法人内で実施しているほか、昼間時間帯・夜間時間帯を想定した避難訓練を行い、非常災害時に利用者の安全を守るように、日々意識を高めている。また、近隣の住民との関係性を密にし、緊急時には協力が得られるようにしている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>栄養士の協力も得て、栄養バランスに配慮したメニュー作りを行っているほか、スタッフが利用者とともに食事をする中で、食べる量やバランスの把握を行っている。また、水分に関しては特に注意を払っており、特に外出時や運動後には、十分に摂取していただけるようにしている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>各ユニットに玄関を設け、自然光の差し込むキッチンでは食事の支度をする職員の姿や料理の臭い等、家庭的な雰囲気を感じられ、落ち着いて過せる空間である。リビングや廊下には、花や季節感のある飾り、置物などがあり、居心地のよい空間となっている。共用空間の中に、少数で過せる場所を設け、静かに過ごせるようになっている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>それぞれの居室がその人らしい「自分の部屋」となるように、ご家族の協力も得ながら、使い慣れた家具や思い出の品々をできるだけたくさん持ち込んでいただいている。</p>		

は、重点項目。